

平和について考える

～ 戦争体験や証言を継承する子どもたちからのメッセージ ～

☎生涯学習課人権・同和教育係 ☎0943-32-0093

戦後「78回目」の夏

夏が来るたび、戦争体験者が少なくなっています。戦争の悲惨さを実感し、終戦直後の苦しい時代を生きぬいた「語り手」がいない時代が近づいているということです。

しかし、戦争の悲惨さは、風化させることなく伝えていかなければなりません。戦争を直接知らない世代の人が、どのように戦争体験や証言を継承するかが課題となります。

平和を考える学習の取り組み

広川町の小中学校では、今年も8月4日の全校出校日に「平和」について考える学習を行う予定です。それぞれの学年に応じ、平和の尊さや戦争の悲惨さを学びます。みんなが幸せに過ごすために、これからの平和な未来のために、違いを認め合い、相手の立場に立って考えることの大切さを学んでほしいと思います。



▲平和記念像
長崎県長崎市
松山町(平和公園)

「戦争のない未来へ」

中広川小学校六年 金子実央
(現広川中学校一年)

みなさんは、「戦争」という言葉を聞いたらどんなことを想像しますか。ほとんどの人は、「恐ろしいもの」「してはいけないもの」などと考えると思います。なぜなら戦争をすると、たくさんの方の命が奪われ多くの人が悲しみ、苦しみ続けるからです。私は、今年、六年生として、平和学習を通していろいろなことを学びました。

まず、夏に学習した「かよこ桜」です。たった一つの原子爆弾が、あんなに大きい小学校などをこわし、未来があった子供達の命を奪ってしまったことを知り、本当に悲しく感じました。この学習を通して、私が今、生きているのは当たり前ではない、いろいろな人達のおかげであると感じました。そして、一日一日を大切に生きていこうと改めて感じました。

中で心に残ったのは、やはり原子爆弾投下の際の様子でした。外に出ようと玄関に立った時、ガラガラした色で光り、周囲が真っ白になって気を失ったそうです。熱線、爆風、放射線によって、たくさんの方が亡くなり、たくさんの方の建物が壊されたことを想像するだけで心が痛くなりました。生き残ったとしても、放射線の影響でずっと苦しんだり、亡くなってしまったりした人がたくさんいたと聞きました。原子爆弾の影響で身体を傷つけられるだけでなく、家族、友人など大切な人達が亡くなり、心までも傷つけられていることを知り、戦争の悲しさを改めて感じました。戦争をして何の意味があるのでしょうか。大切な人の命を奪い、未来の夢を奪い、悲しみや苦しみを生み出さない戦争を、決してしてはいけません。私は、原子爆弾の恐ろしさと平和の大切さを未来の子供たちに伝えたいと思いました。

しかし、現在でも、戦争を行っている国があります。私は、広島や長崎のように原子爆弾が使われてしまうのではないかとすごく恐怖を感じます。戦争は、「恐ろしいもの」「してはいけないもの」だけでなく、人の未来や幸せまで奪ってしまいます。つまり、戦争によってたくさんの方々の人権を奪っているということを考えてはいけません。そして、これ以上悲しんだり苦しんだりする人を出さずに、全ての人たちの人権を守り、差別をせずに平和を願うことが必要です。

「嘉代子桜」

長崎市への原子爆弾投下で亡くなった林嘉代子さんを偲び、母親により植えられました。長崎市立城山小学校にある「少年平和像」や被爆校舎の「平和祈念館」などと共に、今も戦争の悲惨さを伝えており、絵本「かよこ桜」の題材にもなりました。町立図書館で貸し出ししています。

